

# 2008年度「凜々子」栽培レポート受賞校インタビュー

## 愛着のある「凜々子」を “食べた”ことが食育につながる

大阪府 河内町立河内小学校  
2年生50名

たかい み え こ  
高井美恵子 先生



本校に着任後、前任者がトマトの苗を申し込んでいたことを知り、慌てて準備をし、1年生との収穫パーティーをめあてに取り組みを始めました。

一人一鉢での栽培が始まると、子どもたちが毎日のように自分の「凜々子」の様子を伝えてくれました。初めは「簡単に育てられるミニトマトでいいのに…」と思っていましたが、「凜々子」というかわいらしい名前や、加工用というめずらしさ、さまざまな活動に展開できることなどにとても魅力を感じ、「凜々子」の生長とともに、子どもたちも私たち教師も栽培にのめり込んでいきました。

子どもたちの「凜々子」への想いを形に残したいと考え、水彩画でスケッチをしました。普段の観察では、葉や実の数に目が向きますが、苗を教室に持ち込んでじっくりスケッチしてみると、葉のとげや茎の様子など、新たな発見があり、それらを表現した楽しい作品が完成しました。

また、調理の時には、何人もの子どもたちから「凜々子を食っちゃうなんて…」という声が聞かれました。ここまで大切に思っていた「凜々子」を“食べた”からこそ、植物の命のありがたさも実感できたのだと思います。

### 実践のねらいと活動のポイント

- 栽培活動を通して、食べ物のありがたさや、植物の命をいただいて生きていることに感謝の気持ちを持つ。

“自分が小さくなったつもりで、「凜々子」で遊んでみるとしたら…”というテーマで取り組んだ水彩画「凜々子のスケッチ」。



1年生と一緒にギョーザピザパーティーを行い、収穫の喜びを味わった。

## 五感を使って観察したことを 伝えることで「書く力」を高める

岡山県 倉敷市立緑丘小学校  
2年生28名

よ でん よ し え  
余傳吉恵 先生



「凜々子」の栽培は3年目で、これまでの経験から「凜々子」を育てれば子どもの心を育てる「食育」の実践ができる確信がありました。そこで今回はさらに、本校が市の研究指定校として取り組んでいる“国語科を中心としたPISA型読解力を高める授業作り”に関連づけて、「凜々子」を使って子どもたちの書く意欲を高め、表現する力を育てることにしました。

作文指導の初期段階では、とにかくたくさん書くことが大切です。テーマは自分が大切に思っていることや身近なことが扱いやすいのですが、子どもたちが大切に育てている「凜々子」はテーマとして最適です。五感を使って観察し、発見したことを友達に伝えたり、文章の構成を考えながら書く練習を繰り返しました。春から使い始めた作文ノートを1冊書き上げたことは子どもたちの自信となり、2冊目に入ると、どの子も見違えるほど表現力がつきました。

栽培活動では、常に「みんなでスパゲティパーティーをして食べよう」という目標を意識することで、日々の世話にも意欲的に取り組みました。「凜々子」の栽培と取り組みを通して、「心を育てれば、子どもは伸びる」と改めて感じています。子どもの心を育てるには、自然に触れ、人と触れあうことが一番だと思っています。

### 実践のねらいと活動のポイント

- 観察して発見したことを、わかりやすく文章に書くことができるようにする。
- 知らせたいことが相手に伝わるように、簡単な文章の組み立てを考えて書くことができるようにする。



五感を使って観察したことをメモし、文章にまとめグループで共有した。

観察や調理したことを「はじめ、なか、おわり」を意識して、文章にまとめる練習を繰り返した。



## 「凜々子」と心を通わせながら、 子どもたちの“心”を育てる

神奈川県 藤沢市立高谷小学校  
4年生「桜咲くクラス」32名

せき や たか  
関谷 孝 先生



今年初めて「凜々子」の栽培に取り組みました。「凜々子」という名前が、子どもたちに親しみやすかったので、「凜々子」を友達として扱い、友達に手紙を書くように観察記録をつけるよう促しました。すると「はじめまして。りりこちゃん」、「病気になったら、助けてあげるよ」など、子どもたちは上手に気持ちを表現し、「ちゃんと育ててあげるよ」という責任感が自然に育っていきました。トラブルが起きた時は真剣に考えてすぐに対処し、苗が元気になったら喜び、調理してみんなと味わうなど、「凜々子」を通じてたくさんの経験ができました。こうした実体験を通して、子どもたちの“書きたい(表現したい)気持ち”を育てることが、書く力、さらに考える力につながったんだと思います。子どもたちの思いは、観察記録や新聞、カルタにとってもよく表れています。

それから、「凜々子」の命を肌で感じたことや、地域や保護者たちと一緒に活動したことで、子どもたちにお互いを思いやる“心”が育ちました。また、環境劇の上演など、目標に向かって取り組んだことで、クラスにまとまりもできました。やはり目的をもって育てることが大切ですね。

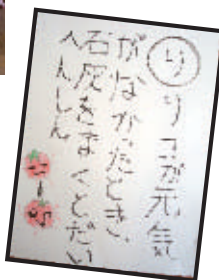
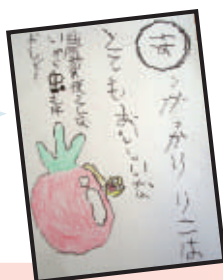
### 実践のねらいと活動のポイント

- 4年生で学習する単元と環境教育に栽培学習を連動させ、人が生きていくために必要な「水」「空気」「食べ物」の大切さを理解する。
- 生活や学習の中から子どもたちの好奇心を高め、その学びを活かしていくよう、多角的な取り組みを行なう。
- 苗への愛情や思いを深め、豊かな感性を育む。



夏休みには、地域の消費生活展で環境劇を上演し、学習の成果を発信した。

これまでの学習をもとに「りりこカルタ」を作った。



## 栽培学習フォーラムをきっかけに、 来年につながる他学年交流を実践

千葉県 千葉市立おゆみ野南小学校  
5年生38名

かき ち ひろ ゆき  
垣地広之 先生



前任者が申し込んでいた「凜々子」の苗が届くと聞き、私は「凜々子」のことを全く知らなかったので、08年2月に行なわれた栽培学習フォーラムに参加しました。栽培方法や、他校の取り組みの様子など大変参考になり、かねてから考えていた学区内の保育園との交流で「凜々子」を活用することにしました。栽培するのは5年生と、来年わが校の1年生となる年長児。翌年も交流できるように、と考えてのことです。

栽培中の水やりなどはフォーラムで得た知識が役に立ち、毎日水やりに励む子どもたちに、「土の表面が乾いたらやるんだよ」とアドバイスもしました。野菜の栽培は食べられる楽しみがあるので、子どもたちは熱心に取り組めますが、収穫が夏休みにかかるので、結局は子どもの口に入らないことが多いんです。その点「凜々子」は冷凍保存できるので、みんなで調理できました。しかも、トマトソース作りはとても簡単で、家庭でも調理した子どもが多く見られました。このように“食べておいしかった”という体験があったからこそ、子どもたちの興味がさらに広がり、自ら熱心に調べ学習を行ない、発表方法を考え、堂々と発表することができたんだと思います。

### 実践のねらいと活動のポイント

- 地域との交流を通して、自ら考え、役割を果たし、自分の言葉で表現する力をつける。

学区内の保育園の畑を借りて、園児と一緒に栽培した。



年長児を「りりこパーティー」に招待して、一緒に調理を楽しんだ。



学校行事では、調べ学習の成果をグループごとに模造紙や模型、ペープサートなど趣向を凝らしてまとめ、発表した。



